



## 【共通】

### ◆生育状況について

#### 1. JA管内 あんず 新潟大実

	発芽	開花	満開	落花
平年		3/27	4/1	4/9
令和8年	3/29	3/26	3/30	4/7
令和7年		3/28	4/7	4/15

#### 2. JA管内 プルーン くらしま

	発芽	開花	満開	落花
平年	4/7	4/12	4/16	4/26
令和8年		4/8	4/12	4/18
令和7年	3/29	4/11	4/15	4/25

#### 3. JA管内 日本なし 南水

	発芽	開花	満開	落花
平年	3/27	4/13	4/17	4/23
令和8年	3/30	4/10	4/12	4/18
令和7年	3/30	4/15	4/19	4/26

### ◆当面する重点作業について

1. 薬剤散布を適期に実施する。
2. 定期的なかん水を実施する。

### ◆梅栽培日誌提出について

梅出荷予定者は、下記期日まで提出する。

1. 提出期限：《梅 ⇒ 5月11日（月）まで》
2. 提出方法：部会役員さん経由又は、直接流通センター・共選所まで。
3. 留意事項
  - 1) 栽培日誌の内容をチェックし、法的に問題がある場合は荷受・販売できません。
  - 2) 提出されず出荷された場合、安全性が確認できないので荷受できません。

## 【プルーン・すもも】

### ◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期：5月13日（水）～5月17日（日） 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
Ⓜダイアジノン水和剤34	1,000倍	100g	21日	シンクイムシ類

#### 3. 散布上の留意事項

- 1) りんご生理落果やもも・ネクタリン葉薬害発生要因となるため、農薬飛散しないよう注意する。
- 2) ダイアジノン水和剤に代えて、Ⓜオリオン水和剤1,000倍（水100ℓ当り100g）を使用してもよい。
- 3) 降雨が多い場合は、トレノックスフロアブル500倍（水100ℓ当り200ml）を加用散布する。
- 4) 散布の際、ブルームの流れ、雫による薬斑軽減のため細かい霧で実施する。

## ◆あら摘果について

摘果は早いほど果実肥大はよいが、第2期の生理落果(不授精による)が開花後2～4週間後にあるため、実止まりを確認してから実施するのが基本。さらに第3期の生理落果が6月にあり(果実相互、果実と枝葉の養分競合による)、摘果が遅れるとさらなる生理落果につながるため、遅れないように実施する。

着果量の多い品種(スタンレイ・ツアー等)や結実良好であった品種・樹勢の弱い樹等は予備摘果に重点を置く必要がある。くらしまプルーンは、不受精果が判断できるようになったら早期に摘果。

1. 時期：小指大の時(満開後30日後頃)

- 1) すもも(貴陽) ⇒ 5月上旬頃(平坦部)
- 2) プルーン(スタンレイ) ⇒ 5月上中旬頃(平坦部)

2. 程度

- 1) 樹勢の弱い樹 : 2年枝の摘果を行い、果実肥大に努める。
- 2) 生理落果《少》品種：あら摘果に重点(仕上げ摘果の2割り増し程度残す)を置き、仕上げは軽度にする。(スタンレイ、アーリーリバー、ベイラー、ソルダム等)
- 3) 生理落果《多》品種：あら摘果は軽度(仕上げ摘果の3～4割程度多めに残す)にし、2年枝を中心に摘果する。(グランドプライズ、トレジディ、サンタローザ等)

3. 方法(受精した果実は緑色が強く、不受精果は黄緑色を呈する。)

- 1) 緑色で正常な果実を残す。病虫害果・奇形果・小玉果・障害果などを落とす。
- 2) 下から横向きの果実を残す。上向き果は、風による障害・日焼等で果皮が荒れやすいので落とす。

## ◆プルーン・すもも仕上げ摘果講習会開催について

下記の日程により講習会を開催します。都合のよい会場で受講するか個々に果樹技術員まで。

開催日	曜	時間	集合場所	担当
5月13日	水	午前9:30	若穂 綿内 駒村和久様園	寺澤
5月14日	水	午前11:00	川中島 小市橋付近 荒井袈裟男様園	松橋
5月14日	木	午前11:30	篠ノ井 塩崎 柴田孝昭様園	徳武

※上記以外の地区については個々に対応しますので果樹技術員までお問い合わせ下さい。

【なし】

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期：5月 3日（日）～5月 7日（木） 実際散布月日 月 日  
 2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：棚4000以上・立木4500以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病虫害
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
トレノックスフロアブル	500倍	200ml	30日	黒星病・黒斑病・赤星病・心腐れ症
Ⓜダイアジノン水和剤34	1,000倍	100g	14日	クワコナカイガラムシ

3. 散布上の留意事項

- 1) 西洋ナシはサビ果が発生しやすいので、乳剤・展着剤は使用しない。
- 2) アブラムシ類の発生が心配される場合は、ウララDF4,000倍（水100ℓ当り25g）を加用散布する。
- 3) 黒星病の発生が心配される場合は、トレノックスフロアブルに代えて、オンリワーンフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50ml）又はスコア顆粒水和剤2,000倍（水100ℓ当り50g）を使用してもよい。
- 4) ダイアジノン水和剤に代えて、トクチオン水和剤800倍（水100ℓ当り125g）を使用してもよい。

◆南水新梢管理について

1. 剪定の切り口から不定芽が発生するので、主枝の赤道面より上側の芽は手で除芽する。（赤い芽のうちに行う。）
2. 主枝先端が花芽の場合、2本程度の副芽が出るので早いうちに1本にする。
3. 誘引作業の実施。
4. 主枝先端の新梢は垂直支柱にそって誘引する。（秋までの伸びが良くなる）

【おうとう】

◆新梢管理について

着果数が少ない樹は、新梢の発生が旺盛になるので、こまめに摘心を心掛ける。

1. 摘心時期：満開後3～4週間頃実施する。（5月上から上中旬頃が目安）  
 なお、早いと再伸長しすぎ、遅いと葉芽ができなくなる。
2. 摘心方法：新梢の基部1～2cm（5葉くらい）残して切る。遅れた場合はやや長めに残す。摘心する新梢は、側枝延長枝と競合するものや側枝の背面から発生する強いものとする。

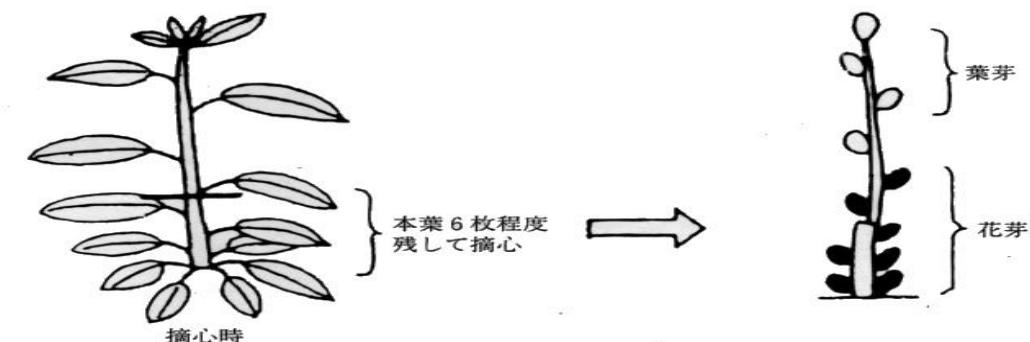


図2 摘心の方法

### ◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期：被覆直前 

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000l当り・10a当り散布量：5000l

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
㊥テルスターフロアブル	4,000倍	25ml	前日	オウトウショウジョウバエ
オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	前日	灰星病
(カネマイトフロアブル)	1,000倍	100ml	7日	

3. 散布上の留意事項

- 1) テルスターフロアブルに代えて、アーデントフロアブル2,000倍（水1000l当り50ml・収穫前日）又は㊥スカウトフロアブル3,000倍（水1000l当り33ml・収穫前日）を使用してもよい。
- 2) ハダニ類発生が心配される園は、カネマイトフロアブルを加用散布する。

【あんず】

### ◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期：5月6日（水）～5月10日（日） 

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000l当り・10a当り散布量：4000l以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
ソ ー ゲ ン	500倍	200g	—	ほう素欠乏
㊥モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	25g	前日	アブラムシ類
㊥カナメフロアブル	4,000倍	25ml	前日	黒星病

3. 散布上の留意事項

- 1) カナメフロアブルに代えて、パレード15フロアブル3,000倍（水1000l当り33ml）を使用しても良い。

【うめ】

### ◆第4回薬剤散布について【中梅・大梅】

1. 散布時期：5月16日（土）～22日（金） 

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000l当り・10a当り散布量：5000l以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展 着 剤	10,000倍	10ml	—	—
イオウフロアブル	600倍	166ml	—	黒星病

3. 散布上の留意事項

- 1) アブラムシ発生が多い場合は、㊥バリアード顆粒水和剤4,000倍（水1000l当り25g・収穫前日）又はダントツ水溶剤4,000倍（水1000l当り25g・収穫前日）を加用散布する。
- 2) 汚れ軽減のため、展着剤に代えてまくびか10,000倍（水1000l当り10ml）を使用してもよい。

### ◆小梅収穫出荷講習会開催並びに荷受開始日について

1. 講習会 ※熟度調査いたしますので、サンプルを持参ください。

開催日	曜	時間	集合場所	担当
5月13日	水	午前9：30	松代総合センター	伊藤

2. 荷受開始日：5月18日(月)より。早まる方は対応しますので連絡ください。